

## 会 議 録

会議の名称	飯塚市行政評価委員会
開催日時	令和3年10月27日（水）
開催場所	飯塚市役所 7階 委員会室
出席委員	田代 隆博 安藤 久代 飯島 高雄 田中 良和 多田 憲昭 中川 真紀 矢部 梓 横山 麻季子
欠席委員	
事務局職員	久原部長、小西課長、岩熊課長補佐、畠中係長、伊佐
会議内容	<p><b>1. 令和2年度施策評価・地域経済分野</b>  （事務局）施策評価「地場産業の振興」、「創業促進と産業の創出」、「商業の振興」、「観光の振興」について説明</p> <p><b>（1）「地場産業の振興」について</b>  （委員）地場産業の振興に飯塚オートが含まれている。包括的民間委託を実施しているため、地場産業の振興の欄に入れているのだろうが、事業費が大きいと、ほかの振興と結びつけて別の振興策とすべきではないか。</p> <p>（委員）現在、コロナの関係で、多くの人（公営競技等を）ネットで行っている。オッズパーク、ロトなど、ものすごくコマーシャルされている。今では若い人もネットで行っており、低額で、遊び感覚でできる。これは積み重なればかなり大きな金額となるので、現在は飯塚オートレース自体単体で考えると赤字かと思うが、今後、増える（黒字化の）余地はあるのではないかと。せっかく公営競技という形のスタンスを持っているのであれば、私は、（施策の）どこに入れるかはまた別の話として、ものすごくいいことだと思う。その中で（飯塚オートが）観光事業のルートなどにもつながる。</p> <p>また、市内の新規雇用創出人数について、新規雇用者数だけでなく失業者も並べたところで比較したほうが、見やすいのではないかと。他市町村のデータも見たが、失業者の人数も入れている自治体も多い。そちらのほうが（成果として）わかりやすいのではないかと。</p> <p>（委員）企業誘致等支援数と書かれてある箇所について、新設、増設、移設など、どのような企業が対象となっているのかが、この中から見えなかったと、伺いたい。</p>

→ (事務局) 企業誘致等支援数は、誘致企業数と企業立地補助金を出している企業の件数となる。対象となる業種は、製造業、情報サービス業、卸売業等になる。実際に移転、新設していただいた企業については概ね製造業や情報サービス業といった業種の企業という状況である。

(委員) 先ほどのオートレースの包括的民間委託について、その業務と範囲がよくわからない。

→ (事務局) オートレースは、これまで直営でやっていたが、現在は、基本的には全ての事業を一体的に、業者に包括的に委託をし、売上げの何%かは必ず市の収益としていただくというような組立てになっている。

(委員) 先ほどの企業誘致の件について、ゆめタウン (イズミ) や沢井製薬が来るというところではすごく雇用の創出にはつながっていると評価している。こういったところにも、立地の補助のようなものが出ているということか。

→ (事務局) ゆめタウンのほうは業種外ということになるので補助の対象にならないが、沢井製薬のほうは対象になろうかと思う。

(委員) それに付随して、沢井製薬はすごく雇用が創出されるが、ゆめタウンについては、地域の商店街や商店がダメージを受けるといった否定的な考えを持っている人も多くいる。私も商売をしているが、やはり地域が疲弊してしまい、みんなその地域のせいにする。人口が少なくなると、売上げが減ってしまうというところで (危機感を持っている人が多くいるが)、私は (今回の進出について) すごく刺激があっていいのではないかなと思っている。やはり危機感を持たないと地域も活性化しないと思う。今からどうすべきかというところでの、火つけ役、音頭取りを、この施策でやっていただきたい。

(委員) 目標達成指標のところについて、新しく起業する数は分かるけれど、維持や継続している企業についてはカウントされているのか、途中でやめているものもあるのではないか。また、経営者について、4 (施策の基本事業実施にかかる事業費)、6 (今後の取組の方向性) に関わるところで、「経営者及び後継者育成のための支援」については、何も事業がないがこれからやっていきたいということかと思う。これは予算がつかないから出来ないのか、事業を立ち上げれば予算をつけられるのか。

→ (事務局) 企業誘致の支援数については、新規、移設、増設された数はカウントし、その後、撤退となり、廃業した件数はカウントしていないと思うが、実際に撤退したところがあるかどうかについては把握出来ていない。(表示されている数字は) 誘致した企業数だけをカウントしている数字になっている。また、「経営者及び後継者育成経営者の支援」について、現在、施策につながる事務事業数がゼロということになっている。こちらについては委員御指摘のとおり、これに関連

づけて実施している事業がない状況である。今後の取組の方向性のところにも記載しているが、重要課題ということで認識しているところである。この関連する事業の取組を新規に実施する場合に、必要であれば、予算もつけて実施していくことになろうかと考えている。

(委員長) 沢井製薬がくるというのは非常に大きな雇用も生み出すし、非常にいいこと。企業誘致に関しては非常に進んでいるとは思いますが、先ほどからも言われている、「経営者及び後継者育成のための支援」にかかる事業数がゼロというのは、気になるところである。県でも、同様の事業を実施しているので、うまくタイアップしてやれば、事業数が確保できるのではないか。

## (2) 「創業促進と産業の創出」について

(委員) 先ほど地場産業の振興のところでも議論があったが、目標達成指数で記載されている件数は、新しく産業を創出した件数、新しく入居した件数を積み上げているだけだと思う。施策の目標は生み出すだけではなく、継続し、地域の雇用や経済の発展につなげることだと思うので、目標達成指標のところ、創業したけれども、今はやっていないといった減になった件数も計上し、継続的にやっている割合がどのくらいなのかというところを検証されたほうがより発展的に、この施策を進めていけるのではないかと思う。

(委員) 新技術と新製品と新サービスという記載について、一体どういったものが世の中に出て、どのような売上げを出せるといった点がわかりにくい。そのような内容があればより評価しやすいのではないか。

(委員) 先ほどの地場産業の振興とも重なるが、創業促進ということで、起業を新しくできるというためには、そこで働く人材を確保しておくということが非常に大事かと思う。飯塚に、市民がそこで働ける（場所がある）ということが大事だと思う。そのためには、できればその創業促進と新しい企業が入ってきてくれるために、誰でもできるという仕事ではなく、何らかの研修や、スキルをつけ、付加価値の高い人材がそこで働いて、新しい、イノベーションを生むことが大事だと思う。企業誘致、あるいは創業を促進する際には、そこで働く人材を飯塚市で準備ができるということが大事じゃないかなと（考える）。その意味で研修、あるいは大学を使って、飯塚に来れば人材がすぐに調達出来るということが、創業促進につながるのではないか。

(委員長) 沢井製薬が来るとなると、500人規模の雇用が創出され、その人たちのスキルを、大学や高校で指導してもらおう。そして、即会社で役に立つような人を育てることが非常に大事ではないか。それが大学と企業の連携、学校との連携になっていくのではないか。製薬だけでなく、様々な製造に関する事業、経営、商業的な経営に関するマネジメントに関しても、学校と連携を進める。その橋渡しを市がやってく

れるとうまくいくのではないだろうか。

→ (事務局) 御指摘いただいたように、今度来ていただくイズミや沢井製薬が地元の雇用の受皿はつくるとしても、企業側からもスキルの高い人材を求めているということも聞き及んでいる。せつかく三つの大学という豊富な地域資源があるので、そのような部分を活用し、人材の育成を行い、すばらしい人材を育てていく必要があると考えている。

(委員) 数字的にみていくと創出件数、入居件数があまり伸びてない。目玉となっているのに伸びてない。今、委員長が言われたように製薬会社が進出してくる。これを機に、ITに特化した産学官連携事業にとどまらず、新たな項目を設けて、例えば沢井製薬でもいいので、沢井製薬との連携、産学官の連携の仲介という事業等も今後視野に入れていくべきではないか

→ (事務局) 評価の件について、7 総合評価の2 次の評価のところで、その他の評価として、「B：成果は出ているものの目標には及ばないことから判断した」という記載がある。こちらについては、今委員の御指摘のとおり、2 の左の右のグラフ（インキュベーション支援事業を活用した創業件数及びインキュベーション施設等入居件数）が、まだ全然目標値に達していないという内部評価である。確かにこの件数を伸ばしていかないといけないということと、単に産学官連携の件数が増えるだけでなく、その企業がきちんとした成果を上げていくための支援についても、当然実施していく必要があると考えている。

(委員) 飯塚には多く大学があるにも関わらず、特に九工大生はほとんど飯塚では就職しないという現状がある。飯塚市はIT特区を取り、福岡県の中でもブロックチェーンにいち早く取組んでいるにもかかわらず、優秀な人材が全部外に流れているという状況。（人材流出を止める）仕掛けが必要ではないか。自分たちが将来を担える技術者になれるかもしれないという、夢や希望を持たせるような場（が必要）。今、IT企業が頑張っているが、そこに学生が関わられるような、きっかけとなる仕組が必要。つなぐカフェ等をやられているけれど、なかなかまだ成果になっていないというところもあるので、若い人材を確保できるような仕組をつくらなければいけないのではないのか。

(委員長) 国立の研究施設などを誘致出来たら、前に進むのではないかなと思う。これだけ大学もあり、そのような誘致を出来ないか模索をしてほしい。

### (3) 「商業の振興」について

(委員) (買物は) ウェブサイトで買ってしまう。店に行つての買物はすごく減ってきている。商店街の人はどういうことを求めているのかが見えにくいので、現状を教えてほしい。

→ (事務局) 残念ながら飯塚市の中心市街地は、人通りがかなり少なくなつてきている。コロナの影響を受け、ますます大きく落ち込んだという

数字も公表された。ゆめタウンが来て、かなりその打撃もあるだろうと思っているが、一方で、商店街からも、この機会をうまく使って、中心市街地側に人が流れる方法を一緒に考えていきたいという話もいただいております。まちが元気になる方策を、行政もあわせて考えていきたいと思っている。また商店街の中で、まちゼミ、時々商店街の中で、市民の方に歩いていただき、いろいろ商店の品物を紹介したりする機会、意見交換を行う場面もつくっている。その機会の中で商店街でも意欲のあるところは、消費者から御意見をいただきながら、変わっていきこうというところはある。事業承継がうまくいっていないところもあるが、若い方が戻ってきて、とにかく元気にしようという動きもある。そのような機会をとらえて、まちへ出かけていただき、御意見をいただけたらありがたい。

(委員) 銀行などに行くときに、ついでに商店街に行くが、お店でなく保育施設や、就労支援事業施設等が入っていて、商店街というイメージがなかった。(商店街へ行く) 障壁になっているのは駐車場代。買うか買わないかわからないのに駐車場代を払ってとめて行ってみたら(ほしいものが)なく、ほかの大型施設に行くということがある。閉店している店舗も多く、店と店との距離があるため駐車場代を気にして駆け足になってしまう。高齢者は長い距離を移動するのが難しい方も多いので、商店街をコンパクトにして少ない移動距離で買い物できれば高齢者の方は行くのかなとは思う。

(委員) 課題という言葉で書いてあるまちのにぎわいや商業の活性化は、言葉としては分かるけれど、具体化すると何なのかわからない。あわせて、目標達成指標についても、(評価するための) データがないのであれば、この目標値を指標にしてはいけないのではないか。今おっしゃられたような観点に目を向けて、どういう支援をしているのかななどを目標指標にするべきなのではないか。

(委員) 商業の振興について、中心市街地商店街だけに限り焦点を当てるべきなのかというところについて疑問に思う。商店街の中の空き店舗をどうするかという問題もあるけれど、むしろ元気な新しいお店というのは中心市街地以外のところに出店されているところが多く、市全体で考えると、そのようなところに出店していればそれでいいのではないか。また、交通手段や社会情勢が30年、40年、50年経過して変わっているので、本町が中心地で、あそこに商業が集まらないといけないのかということ、市としては考えなくてはいけない。商店主にとってはあそこから動けないということもあるのかもしれないが、市全体の商業振興からすると、あそこにだけ資源を投入するのは再考すべきなのではないか。今ある商店街は、昭和30年代の市の大きさに合わせて出来ている。それから市の人口は減少したが、今の商店街は人口規模に対して大き過ぎるために、空き店舗が生じている。そこをもっと整理していかないと

いけない。空き店舗ばかりが並ぶ商店街になってしまう。もっとコンパクトにしないといけない。それぞれの商店の権利があるので、簡単に移動は出来ないのだろうが、おそらく規模が大き過ぎるのだと思う。

(委員長) 商店街そのものに、ミッションやテーマがなくなった気がする。商店街の役割は何なのかということ、もう一度何か考え直さないといけない。ゆめタウンやジャスコは、ミッションを持っていると思う。市役所の横に事務所だけのビルがある。事務所ビルというミッション、テーマを持っている。アイタウンは、そのテーマがぼけてしまっているという気がしており、一つ一つがテーマをきちっと持っているところには、人が集まっている気がする。もっと自分たちのやるべきミッションは何なのかということ、徹底して考えていくべきではないか。

#### (4)「観光の振興」について

(委員) 嘉穂劇場や、サンビレッジ茜など、飯塚には面白い施設が、いろいろなところにあるが、一方で宿泊したい宿がない。2泊ぐらいしてもらわないと、観光はなかなか潤っていかないのかと思う。古民家的なプレミアムをつくようなホテル、宿、そのようなものが飯塚にあると、人が行くのではないか、泊まるのではないかと思う。現在、自転車を趣味にしている方がとても多く、レース等を開催するなどして、飯塚の人だけではなくて外からの人に魅力的な飯塚に来ていただけるようにすることが必要。

(委員) 伊川温泉もあるが、観光も温泉と宿があったら行くかなと考えるが、実際は交通機関が車に限定されると(難しい)。地下鉄が福岡と筑豊と北九州でずっと巡回していれば日帰りでも行けるなど感じる。

(委員) 飯塚だけではなく、筑豊全体の問題なのかと思う。中途半端だと思う。自然がこれだけあって、食もおいしくて豊かというところはすごく自慢したいが、やはりこれというものがない。筑豊が一体になって、プロジェクトをしたほうがいいのかとずっと思っていた。あえて飯塚で言えば、内野宿ももったいないし、長崎街道があるというところは、すごく歴史もあり、史跡もあり、そこにシュガーロードというストーリー性があるのに、活かし切れていないというところ(がもったいない)。最近、八女がすごく活発になってきているけれど、そういった成功事例も真似してやってほしい。そうすると人が来る。特産品があって、宿泊も出来てという(流れになる)。成功している地域に視察に行くと、そのようなプロジェクトを組んではどうかと思う。福岡県の真ん中で、どこからでも来やすい、この筑豊というところ、特に飯塚はそういう立地条件でもあるので、もったいないなというところがある。

(委員) 中間市では、本当に特に何も無いところをただ歩くフットパスなども熱心に取り入れていこうとされている。成功事例も真似できるものは取入れていこうとの意見には、私も賛成である。評価表の中で目標達成指標が観光ルート数や観光客数になっているが、特産品の開拓や情報

発信ということも（施策には）入っている。こういったところの指標をしっかりと掲げて入れていけば、C評価にはならないのかもしれない。むしろ観光資源に関しては、特産品をオンラインで売る、ふるさと納税や、ガバメントクラウドファンディング等、ITと関連させて、すごくすてきなサイト等もつくれるかもしれない。

（委員長）観光資源の開発はやるべき。夢のような話をするが、テーマパークを誘致したらどうだろう。ゴルフ場がたくさんあるが、それ一つテーマパークに変えたら面白いのではないか。また、オートレースに関して、インバウンドで呼び込んだらどうだろう。そうすると、（集客数が）増えるのではないか。もう一つが、オルレ（トレッキングコースの総称）の開発。ウォーキングで、八木山からサンビレッジ茜、内野のほうまでずっと歩けるように整備をしてみるといえるのはどうか。

## 2. 令和2年度施策評価・教育・文化分野

（事務局）施策評価「スポーツの振興」、「文化芸術の創造」、「国際交流・多文化共生の推進」について説明

### （1）「スポーツの振興」について

（委員）この施策はスポーツを振興してみんなが健やかに健康にという趣旨だと思うので、市営スポーツ施設利用者数の指標として全利用者数だけではなく飯塚市民の利用者数もあげて、それが伸びるとか伸びないとかいうだけではなく、人口は確実に減少しているはずなので、市民の何割ぐらいの人が利用するかということを目標にしてはどうか。

（委員）「4 施策の基本事業実施にかかる事業費」に記載されている予算面からは、施設整備に重点を置かれていることがわかる。施設利用者は近年ずっと減少している。減っているのに予算は施設整備に充てられているという部分、チグハグな関係になっている。施設整備は老朽化の関係でなされていると思うが、老朽化よりも施設の拡大（新たな確保）という考え方も必要ではないか。「6 今後の取組の方向性」において、高齢者のスポーツとしてグランドゴルフが盛んになっているが足りない（いう状況ではないのか）。グランドゴルフであれば小学校の運動場を借りればいい。ただ使う道具等の保管場所が不足する場合もあるかと思うので、いろいろ工夫していけばいいと思う。既存の整備だけに重点を置かず、新しく高齢者が望んでいるものはどういうものか（把握する必要がある）。また、施設利用者が少ない理由については、公共交通機関の問題もあると思う。旧筑穂地区では、公共交通機関が全くない。田川から近大を通過して福岡に行くバスについても、直行はほぼ整理されていると思う。アクセスの問題についても施設利用者の減につながっているのではないかと思う。そのため、先ほど述べた、新たな施設の整備の掘り起こし、身近な施設を使うことも必要ではないか。また、学校の施設を利

用する場合、教育委員会との連携も必要だろうと思う。

→（事務局）こちらの予算額がかなり大きくなっている点については、委員御指摘のとおり老朽化した体育施設の改修経費もあるが、今回、新体育館を整備している関係で、その予算が大きくふくらんでいる数字になっている。

（委員長）もっと大きな公式の大会ができるような施設にすると、違うのではないか。そうすると、スポーツだけでなく、観光資源にもなってくる。そのような施設をつくと、スポンサー企業もあらわれてくれる。そうすると、施設費に対してでも少しはカバーできる気がする。

## （2）「文化芸術の創造」について

（委員）コスモスコモンでは、文化芸術に触れるため、幅広くいろいろな方がこられていると思うが、せっかく教育文化施設と言われているのに教育の部分が、余り記載にない。見て楽しむのは文化だと思うが、芸術というのは、教育でもあるので、例えば海外ではコミュニケーション力を高める場面で、文化を使ったりなどしている。そのような教育の部分で、飯塚コスモスコモンを使ったり、またほかの部分を使うといいのかなと思う。また、音楽コンクールについて、あまり市民の方は見ることがないので、最後にエキシビションやコンサートを実施し、出場者の方と地域子どもたちをつなげる、そのようなイベントを行うとすごくいいと思う。

（委員）大きな新人音楽コンクールや車いすテニス大会といった世界的な大会が行われているにもかかわらず、市民に浸透していない。学校と連携し、教育につなげ、優しさと豊かな心が育つという、未来を担う子供たちの人材を育成するということころにも、視点を置いて、業務は主に、健幸スポーツ課と文化課が担当しているが、教育担当部署とタッグを組んで、子どもたちに接する場をつくらないと関心が喚起できない。いろいろな課が連携をとりながら、飯塚市の未来を担う人材を育てていかなければいけないのではないか。

（委員）嘉穂劇場をどのように活用するかは、今の状況だと難しいところであるが、嘉穂劇場単体でなくてその周辺（との連携が必要）。嘉穂劇場を見た後、どのようにまちを周遊するかというところで商業とも関係してくる。やはり一体化していないところが（問題であり）、もっとそのような雰囲気になれるまちづくりが必要なのかと思う。スポーツの振興も、今回パラリンピックの事前合宿がなかったが、そのような国際大会誘致が出来たらいい。国際大会の規模からいうと、パラスポーツのほうが飯塚市の受入れ体制からするといいのではないか。

（委員長）国際大会、パラスポーツ等のイベントを開催しようとするときに、言葉の問題がある。もっと英語や中国語等を話せる人が増えればいいと思う。29 ページのことにも関連してくるが、外国人がたくさん飯塚に今も住んでおり、間違いなくもっと増えていく。そうすると、外国の



方が日本語をきちんと話せるというのが必要になる。日本語教室をどこかでやっていただけたらなと思う。それを、例えば商工会議所が日本語教室を主催する、近畿大学でやっていただく、日本語の弁論大会を開催するといったことで、外国人にも日本語を学んでいただけるというのが必要ではないか。留学生としてこられる方はそれなりに日本語ができるかもしれないが、労働者として来ている方々が低い言語力であることや、家族で来日したときに、自分はできるけど、子どもが出来ないという場合はあると思う。そういう場合へのケアは必要ではないか。それが国際都市となっていくためには必要ではないか。

### (3)「国際交流・多文化共生の推進」について

(委員) 語学力は大事なもので、仕事をする上で、英語を会社で使うときも、ビジネスの英語というものは実際にはないが、特殊な英語を勉強しなくてはいけない。例えば金融だったら金融の英語がある。語学では、日本語はとても難しいと言われていて、(外国人の方は) かなり対応に苦慮しているが、それを勉強する場所がない。また、どのような会社に就職するかによって日本語力はかなり違ってくるので、そのようなところをつなげるような場所が必要。また、(外国人に) たくさん来ていただいても、日本語の表記しかないので、外国の人は生活するのがとても大変かなと思う。

(委員) 飯塚市内の中学生、高校生の学生と、飯塚市内の大学の外国人留学生との交流を図るボランティア団体、ユリシスがある。そこでみそづくり教室などをやらせていただいている。留学生も飯塚市に移住する外国人も増えている中で、せっかくの機会を活かしてほしい。学生のようにそのような体験をするかしないかというのは、とても大切なことだと思うので、国際政策課と教育担当部署がしっかりとタッグを組んで、そういったチャンスのある場を子どもたちに与えることが大切ではないか。その横に商工担当課も来るという(形が望ましい)。行政は、組織が縦割りで横のつながりが弱いと感じる。もう少しフラットに、一緒にできるような固定観念を外した方がよいのではないか。

(委員) 観光のときにも言葉は必要であるし、協働のまちづくりや情報共有というところでも外国人の方は排除されてしまうのかと思う。近年だと防災や防犯、ハザードマップを多言語で発行しているか、そのようなところとも関連するのではないか。複数の部局で抱えている課題が一緒かもしれない。一体的に推進できるものについて、ほかの部局との意見交換を行うことが重要ではないか。また、「56 文化芸術の創造」と「58 国際交流、多文化共生推進」両方ともについて、目標達成指標の三つ目の「満足している市民の割合」に「普通」(という回答を) 算入して満足度が8割、7割と表記するのは違和感がある。

(委員) 今はコロナだが、二、三年前は、ベトナムにミッションを派遣してということもあったと記憶している。そのような縁のある国、あるい

	<p>は町があるのならば、飯塚にいる外国人の方が暮らすのに便利な店や、彼らが母国の味を感じられるようなレストランがあるというのも暮らしやすさであるし、ある意味では食を通じて国際交流するという面もあり、そのような指標があっても面白いかなと思う。縦割りの課ではなくて、いろいろな課と課が連携して取り組めたら新しい発想が出てくるのではないかなと思う。</p> <p><b>3. 令和2年度施策評価・その他分野</b></p> <p>(委員) 7 ページの「財政の健全化」の中の、目標達成指数「2 市税等滞納(未収金)総額の減額」について、(滞納額は)減少してきているので、26億の目標値は高過ぎると感じる。20億ぐらいが適当ではないか。国と県と市で、一緒になってやらないと減らない。最近は市の方も、徴収という意識がものすごく高く、努力されていると思うけれど、もう少し考える余地はあるのでは。</p>
<p>会議資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・令和2年度 飯塚市施策評価シート (9月28日開催と同資料)</li> </ul>
<p>公開・非公開 の別</p>	<p>1 <input checked="" type="checkbox"/> 公開      2 <input type="checkbox"/> 一部公開      3 <input type="checkbox"/> 非公開</p> <p>(傍聴者 0人)</p>
<p>その他</p>	